

タロットの遊び方コンテスト参加作品

テーマ：神器と精霊

ゲーム名：神器なき戦い

バージョン：v1.00

考案者：《匿名》

受付日：2020年12月11日

概要 嘘を見破って早く手札を無くす

プレイ人数 3～6

使うカード 神器Nを4枚、精霊Aを4枚、数字2からKまでの全部の札、計56枚

プレイの流れ 順番に一つ上の数字の札を出していき、嘘なら「ダウト」といって阻止する。神器は必ず嘘の札になる。

参照ルール ダウト

概要 神器の札が必ず嘘になってしまうダウトです。

プレイ人数 3人から6人程度

使うカード 神器Nを4枚、精霊Aを4枚、数字2からKまでの全部の札、計56枚。

プレイ方法

最初に、じゃんけんなどの方法で親を決めます。親は、シャッフルした56枚のカードを自分から右回りに全部配ります。

親の左隣の人から始め、「1」と言って、札を裏返しで場に出します。精霊Aは1の札になります。ここで、出す枚数に制限はありません。このあとは、時計回りで、順番に「2」「3」「4」と言って札を出していきます。「10」の次は「J」「Q」「K」になり、その次は「1」に戻ります。パスをしてはいけません。なお、言った通りの内容で札を出す必要はありませんが、後述のように嘘がバレたときは、ペナルティを負います。

誰かが出した直後なら、他の誰でも「ダウト(嘘)」とすることができます。そのときは、出された札を表向きにして、言った内容と合っているか確認します。たとえば、「5」と言ったのに出した札が「7」なら、違う札を出したことになります。また、「5」と言ったのに出した札が複数枚で「5」「5」「7」なら、2枚は合っていますが1枚は違うので、違う札を出したことになります。

ダウトと言われたとき違う札を出していたなら、その札と既に出されている裏返しの場合札を全部まとめて、出した人が引き取ります。ダウトと言われて正しい札を出していたなら、それらをダウトと言った人が引き取ります。

ここで、神器の札は厄介です。神器は「1」から「K」までのどの数とも合

いませので、神器の札を出したときにダウトを言われたら、必ず違う札という判定になります。

もし、誰かがダウトと言われて、出した札のなかに精霊の札が入っていたときは、それが嘘であっても本当であっても、それと同じマークの神器の札を手札に持っている人は、その神器の札を提出して、一緒に引き取ってもらうことができます。

こうして、手札が最初になくなった人が勝ちます。順位を決めるときは、勝った人から抜けていって、抜けた順番に順位を付けます。

ルール募集

エクスタロットを使ったゲームのルールを募集しています。応募のあったルールは、エクスタロットのプレイに適しているか審査され、考案者の氏名、受付の日付とともにpdfで公開されます。考案者は、すでに掲載されたルールを修正・改良することもできます。ルールの申請方法は、エクスタロット・ゲーム情報サイト(<http://xtarot.jp/>)をご覧ください。

エクスタロットは、友達とプレイしながら、ルールを面白く改良していくことを目標にしています。そのため、ハード（カード）とソフト（ルール）を分けています。エクスタロット・ゲーム情報サイトでは、最新のルールやカードの情報を紹介しています。

神器なき戦い

著者 中野ハジメ

2020年12月14日発行 v1.00

発行者 有限会社銀河企画 (GPI.JP)

©2020 《匿名》 / 有限会社銀河企画